

2023 年 一橋 日本史 講評

出題分析		
試験時間 120 分	配点 学部により異なる	大問数 3 題
分量 (昨年比較) 〔減少 同程度 増加〕	難易度変化(昨年比較) 〔易化 同程度 難化〕	
<p>【講評】</p> <p>2023 年の一橋日本史の大問 1 は、去年が近世以降からの出題であったにもかかわらず再び近世以降が出題された。2018 年以降の大問 1 は古代・中世以降と近世以降が隔年で交互に出題されていたが今年は久しぶりにその周期性が破られたことになり、来年の出題範囲が予想しにくくなるので受験生にとってあまり好ましくはない傾向である。また、大問2は例年通り近代、大問 3 は昨年とは異なり近現代からの出題であった。今年も、従来の一橋日本史の特徴であった社会経済史の典型問題(産業革命、寄生地主制、金融恐慌、高橋財政など)は影を潜めており、その分野に時間を割いていた受験生は肩透かしをくらったと思う。やはり、最近の一橋日本史では過去問の分野にとらわれず文化史を含む幅広い知識をつけなければ太刀打ちできないという傾向が顕著になってきている。また、一橋日本史の特徴として一問一答の難易度の高さがあり(2020 年の近江商人や今年度の嘉手納基地など)、早慶レベルの語彙力も必須である。しかしながら、大問 1 の問 5(2019 年に類題あり)や大問 3 の問 3(1995 年に類題あり)など過去問をそのまま適用できる問題もいくつかあり、突出して難しい大問も無いため、真面目に過去問に取り組んでいけば、全く歯が立たなかったわけでもないと思われる。全体的な難易度は去年比で「同程度」か、「やや易化」だと判断した。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	海保青陵/経世論と朱子学と荻生徂徠/公事方御定書とその説明/掛屋と札差/村田清風の藩政改革	<p>近年の周期性から外れ、2 年連続近世以降からの出題であった。しかし、マニアックな文化史や鉱山開発史が出題された 2022 年とは異なり、今年度は文化史・政治法制史・社会経済史から満遍なく出題されているため、まだ取つきやすかったのではないかと。しかし、問 1 の人名を確信をもって当てることはかなり難しいのではないかと。また、問 5 は 2019 年大問 1 問 4 に類題がある。問 1…海保青陵。難問。有名な「稽古談」ならまだしも、リード文の著作「経済話」のみから推測するのは困難で、全く参考にはならないと思われる。正解する必要はない。高校日本史で登場する経世家としては荻生徂徠、太宰春台、本多利明、海保青陵、佐藤信淵、大原幽学らがあげられる。一橋日本史では時折経世家について問われているので注意(1984 年の本多利明や 2004 年の大原幽学など)。難 問 2…経世論そのものを説明させるといふ中々例を見ない問題。上下の秩序を重んじる学問であったために幕藩体制の支柱となっていた、道徳的な朱子学とは異なり、経世論は現実の社会経済問題に具体的な解決策を提示しようというものである。そして、上記の社会経済問題には 18 世紀初頭前後以降の、朱子学を基盤としていた幕藩体制の動揺、領主財政の窮乏化、諸色高米価安、商品経済の浸透、本百姓体制の同様などがあげられ、領主財政窮乏化に関しては 2010 年に類題がある。少なくとも「経世済民」というキーワードは入れておきたい。そして、経世論と朱子学と荻生徂徠をどのように関連付けるかであるが、荻生徂徠が朱子学批判を展開していたことを知っていればそこで関連付けることができると思う。やや難。問 3…公事方御定書。特に指定もないため、説明も簡潔に書けばよいと思われる。易。問 4…問題文が何を聞いているのかが判然としないが、ここでは掛屋と札差の素直な説明を問うていると解釈した。掛屋は諸藩の代金の出納にあたる商人で、掛屋は藩の財政・金融面に勢力を振るい、士分(武士身分)待遇をうけた。両替商を兼務する者が多く、鴻池家が有名。札差は浅草の幕府の米蔵から旗本・御家人の代理として俸禄米を受け取り、その売却までを請け負って手数料を収入とした商人で、諸色高米価安によって旗本・御家人の困窮も進み、次第に札差は彼らを相手に俸禄米を担保とした金融を行い、それで莫大な利益を得るようになった。標準。問 5…2019 年に類題があるため、直近の過去問に取り組んでいけば無理なく解ける問題である。標準。</p>	標準

<p style="text-align: center;">II</p>	<p>明六社/新聞紙 条例制定の背景 / 日露戦争と新 聞/ 日中戦争期 の政府とマスメ ディアの関係性</p>	<p>大問 2 は新聞に関する近代史であった。明六社以外は過去問からの直接的な類題はないものの、近年の一橋日本史にありがちな奇をてらった問題や難問はなく非常に素直な問題構成だと感じた。ただ、問 3 の主戦論側の内容や具体的な新聞名が書きにくい。問題数が少ない分、問 2 の自由民権運動か問 3 で何とか字数を稼ぎたい。問 1…明六社。1992 年に類題あり。易。</p> <p>問 2…新聞紙条例制定(1875 年)の、政治状況を踏まえた背景とは自由民権運動の黎明のことであり、「民撰議員設立建白書」等書ける話題は思いつくと思う。ただ、1875 年以降の自由民権運動(立志社建白、国会期成同盟、大同団結運動)などは書かないように注意。意外に過去問での自由民権運動の出題は少ない。標準。問 3…大問2で最も難易度が高い問題。非戦論側の新聞としては「万朝報」「平民新聞」、開戦論側では七博士意見書が掲載された「東京朝日新聞」があげられるが、後者がややマイナーか。黒岩涙香、幸徳秋水、堺利彦、内村鑑三、戸水寛人などの人物名を列挙すれば字数を肉付けできると思う。三国干渉後に国家主義へと右傾化した徳富蘇峰の「国民新聞」でも可。やや難。問 4…戦時体制下における政府とマスメディアとの関係性であるが、つもるところ政府によるマスメディアの言論思想統制、表現の自由の抑制、戦意高揚への利用について簡潔に書けばよいと思われる。リード文にも「人々の戦意高揚、戦争熱をあおる行為に新聞などのマスメディアが加担することになった」と表記があり、何を書けばよいかはわかりやすいと思う。また、余裕があれば内閣直属の「内閣情報局」による思想統制、もしくは言論報道機関の全面的な戦争協力体制をつくるための「言論・出版・集会・結社等臨時取締法」(1941 年)について書いても良いと思われる。標準。</p>	<p style="text-align: center;">標準</p>
<p style="text-align: center;">III</p>	<p>鉄血勤皇隊・非 核三原則/鈴木 貫太郎内閣の外 交交渉/サンフ ランスコ平和条 約への批判/嘉 手納基地/革新 自治体成立の背 景</p>	<p>大問 3 は昨年とは異なり近現代分野からの出題。問 3 のサンフランシスコ講和条約に関しては 1995 年に類題があり、対策をしていた受験生にとっては問題なかったと思われる。また、問 2、問 5 はややマイナーな知識で書きづらかったと思うため、字数が足りなかった受験生が多かったのではないかと推測する。その意味での難易度評価にした。</p> <p>問 1…①鉄血勤皇隊。やや難。②非核三原則。易。問 2…2019 年の大問 3 で出題された東久邇宮成彦内閣の 1 つ前の鈴木貫太郎内閣の外交交渉についての問題である。過去問にも類題はなく、教科書を読みこんでないとすんなりと思いつくことはできないのではないかと推測する。ただここで字数を割く必要はないと思うので簡潔に書いてしまえばよいと思う。ポツダム宣言を黙認したことについて書いていればそこまで差はつかないと思う。やや難。</p> <p>問 3…サンフランシスコ平和条約への批判の問題は 1995 年に類題があるため参考にできたと思う。社会党・総評など、日米軍事同盟体制の固定化に反対して全面講和論を主張する革新勢力から批判された。なお、平和問題談話会が岩波書店の雑誌「世界」に発表した声明・論文などを理論的支柱にして全面講和論は支持を獲得した。標準。</p> <p>問 4…難問。1968 年に B52 が墜落し、爆発・炎上した事故が起こったのは嘉手納基地であるが、山川用語集には基地名はあったが事故の記載がなく、資料集にも事故の記載なし。解答できなくても全く気にする必要がない。難。問 5…革新自治体が成立した経済的・社会的背景で、ややマイナーな知識。ただ、革新自治体について知らなくても、佐藤栄作内閣期の社会経済状況＝高度成長期を想起できれば解答に結び付けられたかもしれない。高度経済成長がもたらした公害問題や人口集中に伴う生活環境の悪化など都市問題の解決を求める住民運動の高揚の中で、地域住民の期待の中で誕生したのが革新自治体であり、美濃部亮吉知事時代の東京都が一例。開発優先から福祉優先へと転換し、国の法整備に先行して老人医療の無償化、福祉行政を積極的に行い、政府よりも厳しい公害規則を設定した。しかし、政党間の対立を背景とした支持基盤の不安定さ、低成長時代に対応した地域産業政策の未熟さなどの弱点もあり、特にオイルショック後の不況では財政問題に苦しんだ。やや難。</p>	<p style="text-align: center;">やや難</p>